

HPV ワクチン



公費による接種は2024年度末まで！

キャッチアップ接種対象者（1997年度～2006年度生まれの女性）がHPVワクチンを公費（無料）で接種を完了させたい場合、1回目の接種を2024年9月末までに済ませておくことが必要です。

HPVワクチンは20～30代の女性に1番多い「**子宮頸がん**」に対して高い予防効果があります。今から病気のことを知り、自分の未来を守るためにもワクチン接種について考えてみましょう。

（参考）厚労省 HP「HPVワクチンに関する情報提供資料」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/leaflet.html>

【Q1 子宮頸がんの原因は？】

HPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因とされています。

このウイルスはごくありふれたウイルスで、生涯に一度は女性の半数が感染するとも報告されています。



【Q2 HPVワクチンにはどんなリスクがありますか？】

接種した部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状（副反応）が起こることがあります。稀にアナフィラキシーショックや失神する人もいるため、接種後30分は病院内で安静にしながら経過観察を行います。

【Q3 HPVワクチンは安全なのですか？】

WHO（世界保健機関）では世界中の最新データを解析し、ワクチンの安全性を示しています。

【Q4 ワクチンは打たず、がん検診を受けるだけでも大丈夫ですか？】

検診は早期発見・早期治療が目的のため、がんの発症を防ぐことはできません。子宮頸がんの原因となるHPV感染は、HPVワクチン接種による予防が効果的です。一方で、ワクチンでは予防できないタイプもあるためワクチン接種と併せて、定期的な子宮頸がん検診を受けることが大切です。



20歳になったら
2年に1回
検診を受けよう

◆ 学校医健康相談のお知らせ ◆

7月10日（水）13:30～15:30 大内みやこ先生

相談時間は1人15～20分程度、費用は無料です。

健康診断の結果や気になる症状、心配なことなどありましたらご相談ください。

事前に予約をしておく待ち時間が少なく済みますので、保健室までご連絡をお願いします。

特に生理に関する問題は、若いうちに対処することが大切です。

鎮痛剤が欠かせない、昼でも夜用ナプキンを使うほど量が多い、レバーのような塊が出る…などなど。

普通と思っていた症状が実は病気のサインだったということもあります。

自分は大丈夫だと過信せず、些細なことでも気軽に相談してみましょう。



【発行】仙台白百合女子大学 保健室 ☎022-374-5032 / ✉hoken@sendai-shirayuri.ac.jp